

緊急時の連絡先

医療機関

医療機関名

住所・電話番号

診療科・主治医

薬局

薬局名

住所・電話番号

ゾレア®を使用される患者さんへ ホームページのご紹介

<https://www.okusuri.novartis.co.jp/xolair>



気管支喘息*1または特発性の慢性蕁麻疹*2の治療で
ゾレア皮下注をご自身で注射される方とご家族の方へ

ゾレア® 自己注射ガイドブック

患者さんご自身やご家族がゾレア皮下注を
安全に注射するための方法を紹介したものです

*1 既存治療によっても喘息症状をコントロールできない難治の患者さん

*2 既存治療で効果不十分な患者さん

ゾレア投与量

医療従事者に確認してから記入しましょう。

あなたのゾレア投与量は、 mg/回 です。

1回あたり の投与シリンジ数は、

150mgシリンジ(紫色)



本

75mgシリンジ(青色)



本

+

1回あたり の投与ペン数は、

300mgペン(灰色)



本

150mgペン(紫色)



本

75mgペン(水色)



本

週間 に1回投与してください。

※ゾレア投与量は患者さんごとに異なり、こちらの記載内容は非常に大切な情報です。

はじめに

このガイドブックは、患者さんご自身やご家族が「ゾレア皮下注150mg/75mgシリンジ」、「ゾレア皮下注300mg/150mg/75mgペン」を安全に注射していただくための方法を紹介したものです。

「ゾレア皮下注150mg/75mgシリンジ」、「ゾレア皮下注300mg/150mg/75mgペン」は主治医から十分な説明を受けた後、主治医の判断に従い、正しくご使用ください。

⚠ 自己注射にあたっての注意

- 自己注射を行う場合、十分な体調管理が大切です。かぜ症状(のどの痛み、さむけ、熱、せきなど)や体調の変化がみられたときは、すぐに主治医または医療機関までご連絡ください。
- 自己注射を行う場合も、必ず定期的に主治医の診察を受けてください。
- うまく自己注射ができない場合や分からないことがあるときは、主治医または医療機関までご相談ください。
- 一度自己注射を始めてから、希望があれば通院での治療に変えることも可能です。その場合は主治医にご相談ください。
- 投与を検討する場合、天然ゴム(ラテックス)に対してアレルギーがあるかをご確認ください。

目次

シリンジ

自己注射に必要なもの	P3
ゾレア(シリンジ)の保管の仕方	P4
1回に必要な投与本数(投与量)の確認	P5
スケジュール	P6
注射の準備	P7
注射する部位	P9
注射の仕方	P10
シリンジの廃棄	P14
注射後の症状や体調について	P15
自己注射管理手帳への記録	P16

ペン

自己注射に必要なもの	P17
ゾレア(ペン)の保管の仕方	P18
1回に必要な投与本数(投与量)の確認	P19
スケジュール	P20
注射の準備	P21
注射する部位	P23
注射の仕方(腹部への注射)	P24
注射の仕方(大腿部への注射)	P27
注射の仕方(上腕部への注射)	P30
ペンの廃棄	P33
注射後の症状や体調について	P34
自己注射管理手帳への記録	P35

Q & A

よくあるご質問	P36
---------	-----

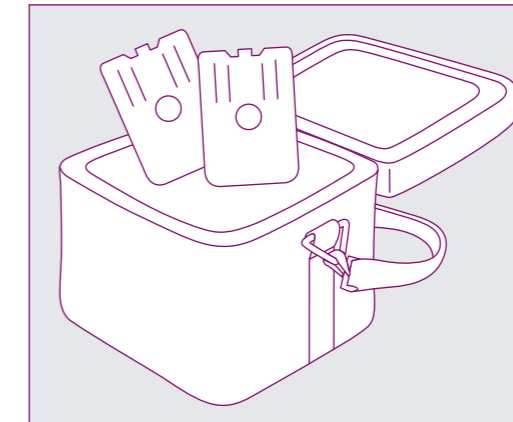
ゾレア (シリンジ) の保管の仕方

医療機関で受け取ったゾレアは、自己注射するときまで箱に入れたまま2～8℃で保管する必要があります。適切に保管されなかったゾレアはご使用いただくことはできませんのでご注意ください（一度でも凍結した場合もご使用いただけません）。ゾレアを適切に温度管理できなかったと想定される場合は、ゾレアを使用せず、医療機関にご相談ください。

● 医療機関～ご自宅等までの持ち運び方法

専用保冷バッグの取扱説明書に従って、すみやかに持ち運んでください。

専用保冷剤を十分に冷やしてから、専用保冷バッグに入れて病医院・薬局にお持ちください。



専用保冷バッグの保冷効果には限りがあります。

ご自宅等から持ち出した後は、すみやかにゾレアを受け取り持ち帰ってください。また、低温・高温になる場所には置かないでください。



● ご自宅等での保管方法

箱を小分け袋に入れたまま、冷蔵庫で保管してください。

- ✓ 冷蔵庫内にゾレアを保管するスペースを空けてください。
- ✓ 薬液が凍結するのを避けるため、冷凍庫、チルド室、野菜室、冷気の吹き出し口付近には保管しないでください。
- ✓ 遮光のため、外箱に入れたまま保管してください。

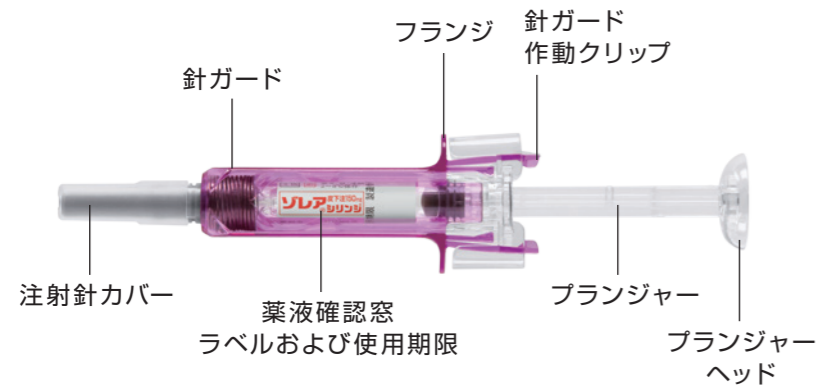


自己注射に必要なもの

① 注射器

患者さんごとに使用するシリンジの種類（紫、青）・本数が異なります。ご自身の投与量を確認してください。（表紙参照）

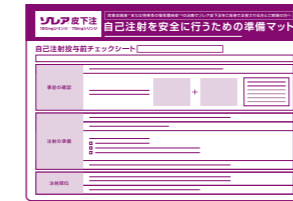
ゾレア皮下注150mgシリンジ（紫色）



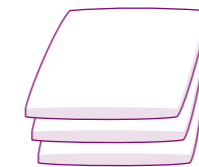
ゾレア皮下注75mgシリンジ（青色）



② 準備マット



③ アルコール消毒綿

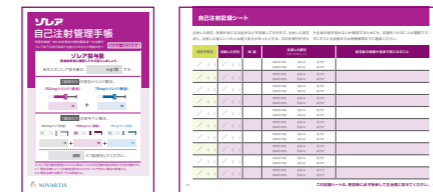


[ゾレアの投与本数×2] 枚 + 1枚 (マット消毒用) を用意してください。

④ 使用済み注射器入れ (廃棄バッグ)



⑤ ゾレア自己注射管理手帳



スケジュール

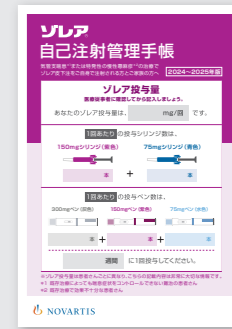
ゾレアの投与スケジュールは、患者さんごとに異なります。
4週間ごと、または2週間ごとに投与します。



- ご自身の投与間隔は、主治医にご確認ください。
- 患者さんによって注射の本数が異なりますので主治医にご確認ください。
- 体調がすぐれないときは無理に注射せず、主治医にご連絡ください。

※自己注射を始める前に、体調不良時の対処法・連絡方法など主治医と事前に相談しておきましょう。

※スケジュールと体調管理にあたっては、「自己注射管理手帳」もご活用ください。







1回に必要な投与本数（投与量）の確認

ゾレアの1回あたりの投与本数（投与量）は、患者さんごとに異なります。
決められた投与量を「ゾレア皮下注150mgシリンジ」「ゾレア皮下注75mgシリンジ」の組み合わせで投与します。



150mgシリンジ、75mgシリンジの見分け方

	ゾレア皮下注150mgシリンジ	ゾレア皮下注75mgシリンジ
ゾレアの外箱	 青文字で150mg	 緑文字で75mg
ゾレアのシリンジ本体	 紫色のシリンジ本体	 青色のシリンジ本体

注射の準備

① 箱を冷蔵庫から出します。

患者さんごとに使用するシリンジの種類・本数が異なります。(表紙参照)



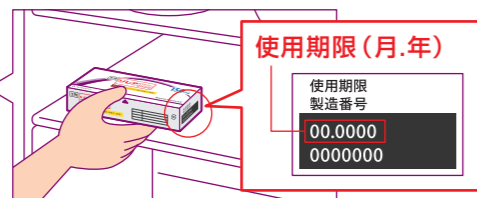
● 注射する約30分前に冷蔵庫から取り出し、箱のまま室温に戻します。(シリンジは使用する直前に箱から出してください)

※箱に表示されている使用期限を確認し、期限が過ぎている場合は使用しないでください。

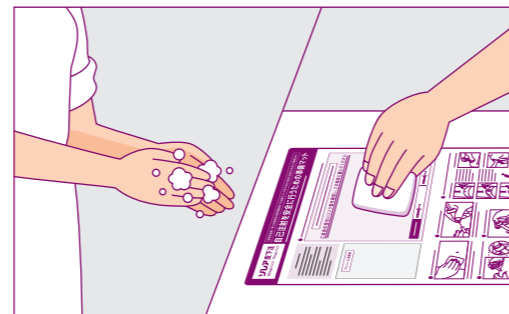
② 場所を確保します。



● 明るく、平らな場所を選んで清潔にしてください。



③ 手を洗い、準備マットを消毒します。



● 石けんを使って手を丁寧に洗い、準備マットをアルコール消毒綿で消毒します。

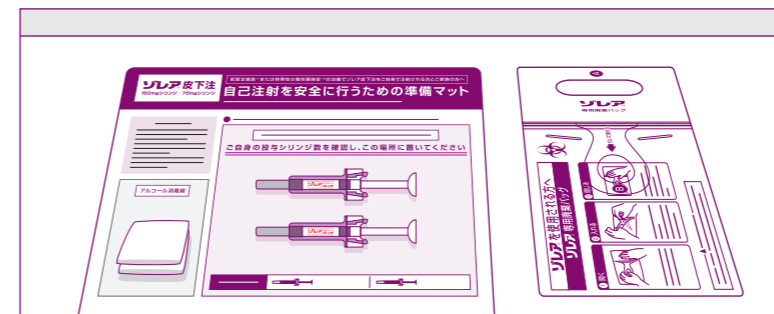
⚠ 注意

● 注射する約30分前に冷蔵庫から取り出し、室温に戻したあとは**速やかに**投与してください。

シリンジを冷蔵庫から出した後は、次の点にご注意ください。

- 電子レンジで温めたり、湯せんにかかけたりしないでください。 ● 振らないでください。
- 長時間放置しないでください。 ● 直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- 硬いところに落とした場合や注射針カバーを外した後に落とした場合は、使用しないでください。
- 子どもの手の届かない場所に置き、子どもの手に触れないようにしてください。

④ アルコール消毒綿で消毒した準備マットの上に注射に必要なものを並べます。



● 準備マットを置き、次のものを準備します。

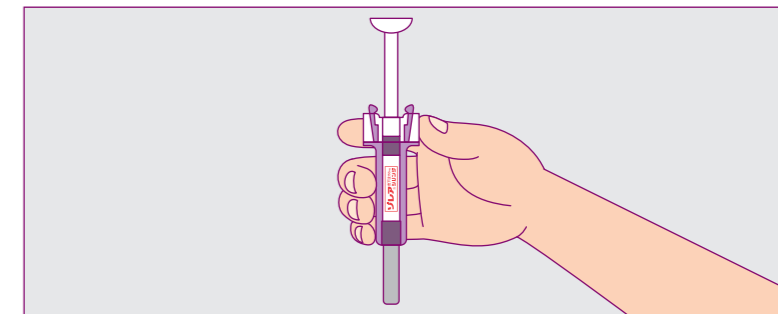
- シリンジ (投与する本数に応じて)
- アルコール消毒綿 ([ゾレアの投与本数×2]枚)
- 使用済み注射器入れ (廃棄バッグ)

⚠ 注意

シリンジの取り扱いは、次の点に注意してください。

- 注射針カバーを外さないでください。 ● プランジャーを押したり引いたりしないでください。

⑤ シリンジと薬液を確認します。



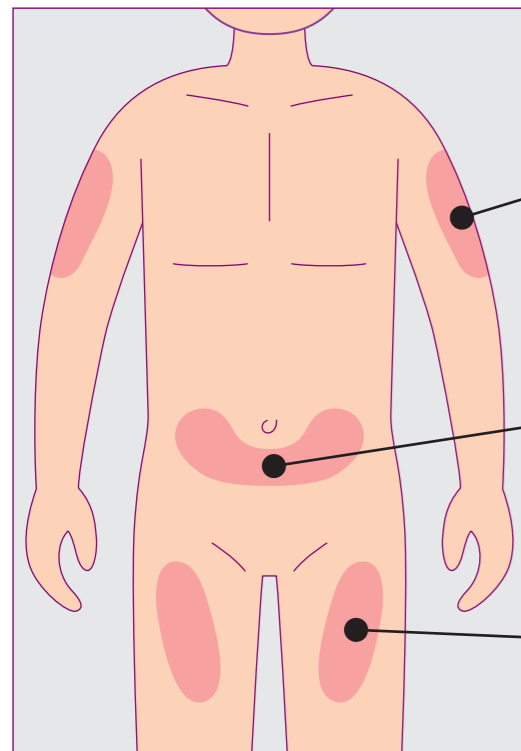
● 次の点を確認してください。

- ✓ シリンジの使用期限が過ぎていない (使用期限は外箱・シリンジに記載)
- ✓ シリンジが破損していない
- ✓ 薬液が変色していない (正常な色は透明か、薄い黄色)
- ✓ 薬液に異物 (粒や塊など) が混ざっていない (気泡が見える場合がありますが問題ありません)
- ✓ 使用済みのシリンジではない (再使用しないでください)

上記に異常があった場合は、使用せずに主治医または医療機関にご連絡ください。

注射する部位

注射する部位は次の**3**つです。



上腕部の外側（二の腕）

ご家族の方が注射される場合は上腕部の外側に注射することもできます。ただし、ご自身で注射される場合はこの部位は避けてください。

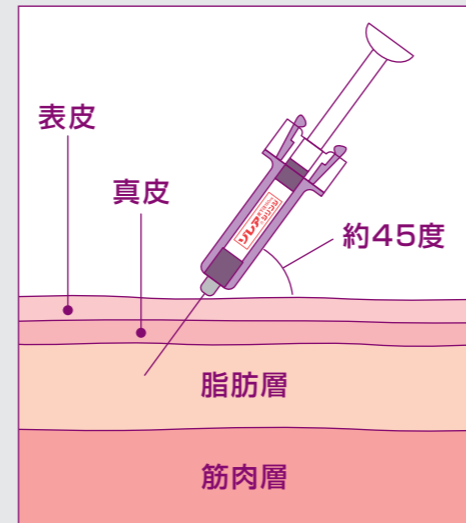
腹部（おなかの下の方）

へその周り5cmは避けてください。

大腿部前面（太もも）

鼠径部（太ももの付け根）や膝に近い部位、大腿部の外側、内側を避けてください。大腿部の皮下脂肪が著しく少ない方は、この投与方法は推奨できません。

皮下注射とは？



- 皮膚の下にある脂肪層に注射します。たるみがあって柔らかい部位を選ぶと比較的注射がしやすくなります。

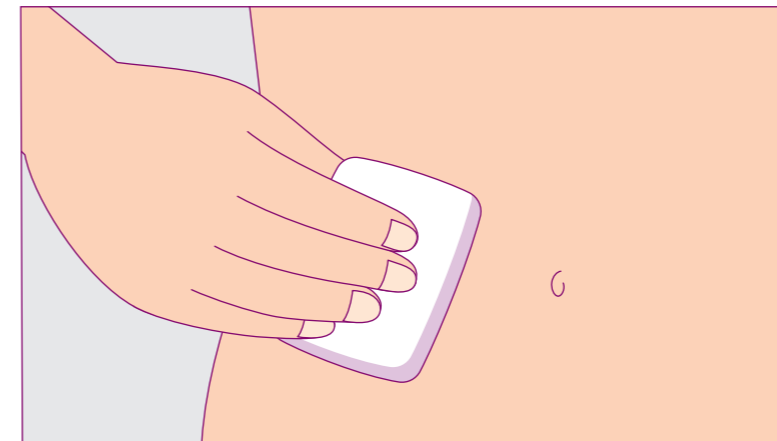
⚠ 注意

- 2本以上注射する場合は、3cm以上離れた部位に注射してください。
- 皮膚が敏感な部位、皮膚に痛み、傷、赤み、かさつき、傷跡がある部位、硬くなっている部位には注射しないでください。
- 「自己注射管理手帳」に注射日と注射した部位を必ず記録してください。

注射の仕方 消毒 ～ 注射針カバーを外す

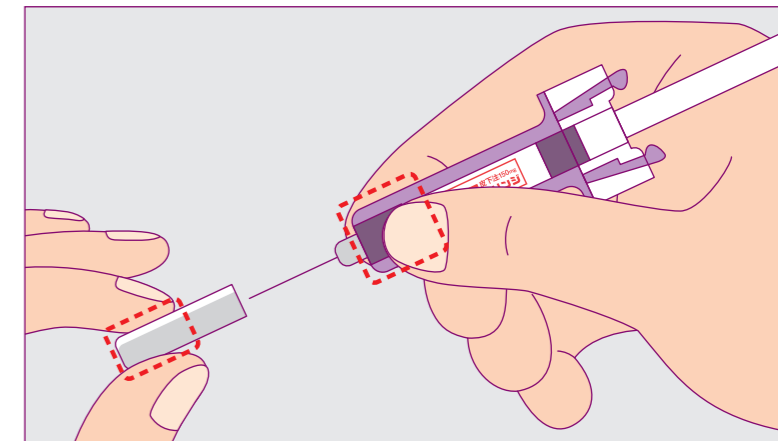
注射の仕方については、主治医または医療機関の指示に従ってください。


① 消毒します。



- 注射する部位とその周囲をアルコール消毒綿で消毒します。

② 注射針カバーを外します。



- 注射針カバーは固くはまっているため、で囲んだ注射針カバーの先の部分をしっかりと持って外してください。

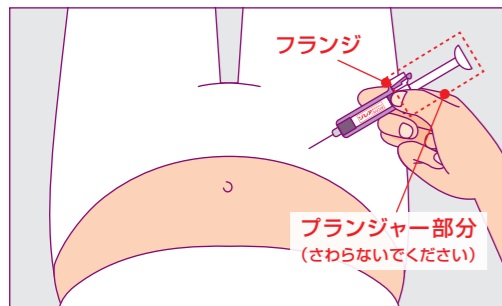
⚠ 注意

- 消毒した部位は注射するまで手を触れないようにしてください。
- 注射針カバーを外す際には、注射針を曲げたり、手に刺したりしないようにご注意ください。
- 注射針カバーを外す際、プランジャーを押ししたり、引いたりしないでください。
- 注射針カバーを外した際、針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。
- 注射針カバーを外したら、すぐに注射を行ってください。
- 注射針カバーには乾燥天然ゴム（ラテックス）が含まれているため、ラテックスに過敏な方ご注意ください。

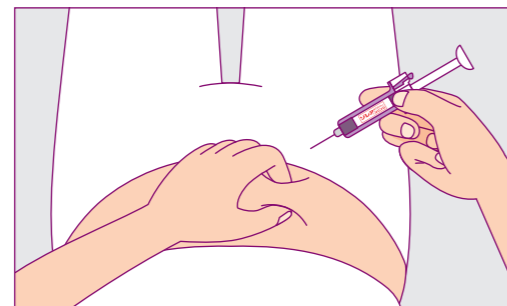
注射の仕方 針を刺す

③ 注射器を持って、針の角度を確認し針を刺します。

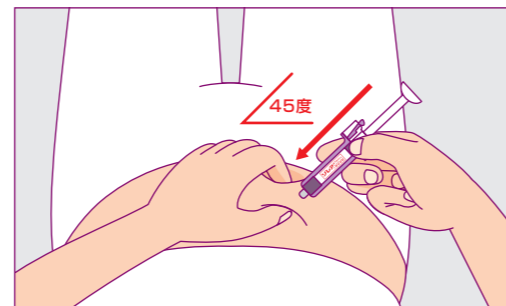
▼ 腹部への注射 ※へその周り5cmは避けてください。



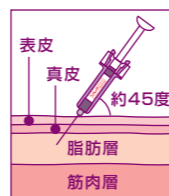
- シリンジを人差し指と中指ではさみ、親指はフランジの下に軽く添えます。
※針を刺す際は、プランジャー部分にはさわらないでください。針のセーフティガードが作動する可能性があります。



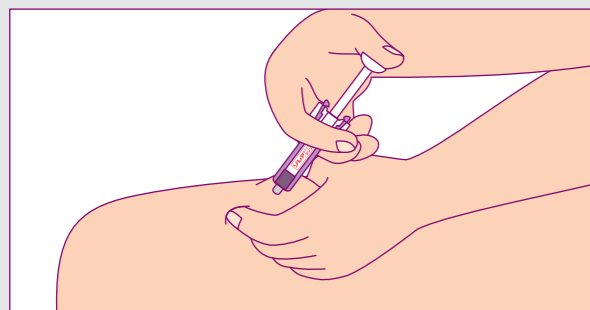
- もう一方の手で、注射部位をつまみます。皮膚をしっかりとつまんで、筋肉内ではなく、皮下に注射できるようにします。



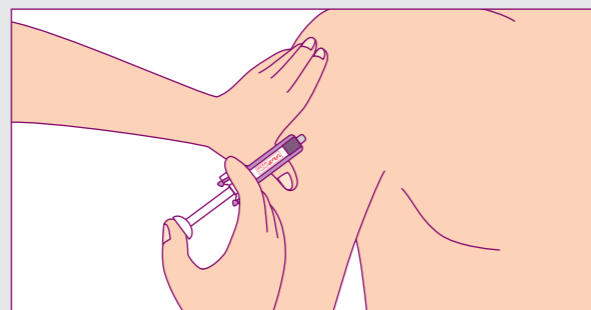
- 皮膚に対して約45度の角度で、針をあてます。
- シリンジをしっかり持って、角度を変えずにまっすぐ針を根本まで刺しこんでください。



▼ 大腿部前面 (太もも) への注射



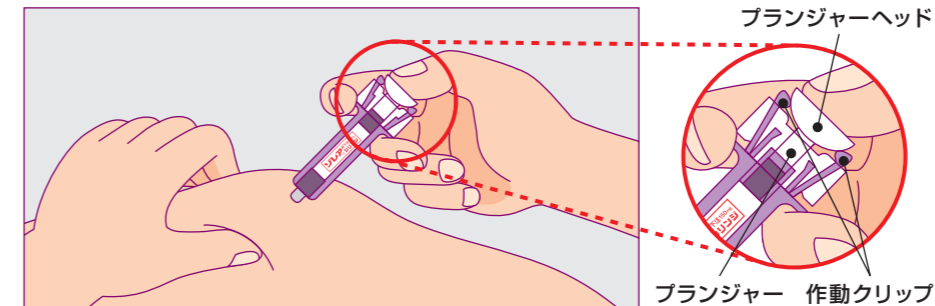
▼ 上腕部の外側※ (二の腕) への注射



※ご家族の方が注射される場合は、上腕部の外側に注射することもできます。ただし、ご自身で注射される場合は、この部位は避けてください。

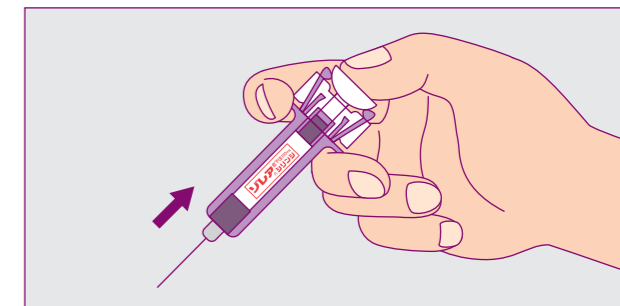
注射の仕方 薬液を注入する ~ 針を抜く

④ プランジャーヘッドを押します。



- 人差し指と中指でシリンジをはさんだまま、フランジの下に添えていた親指をプランジャーヘッドに移動します。
- プランジャーヘッドが針ガード作動クリップの間に完全におさまるまで、ゆっくりと押しきります。
- 5秒間、シリンジを動かさず、押し続けたままにしてください。

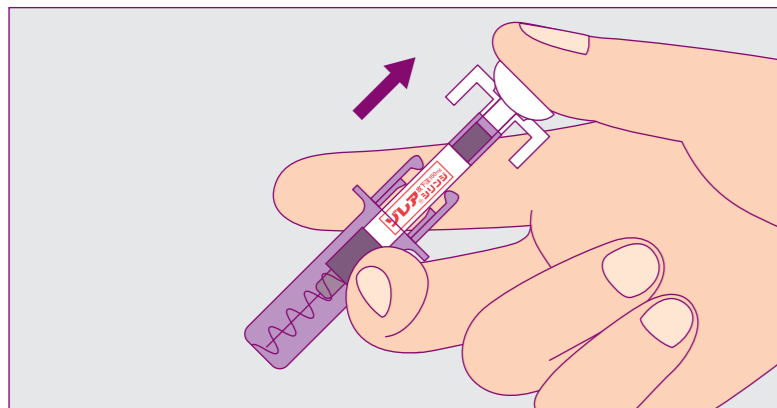
⑤ 注射針を抜きます。



- プランジャーヘッドを押し続けたまま、注射部位から注射針をまっすぐ抜きます。

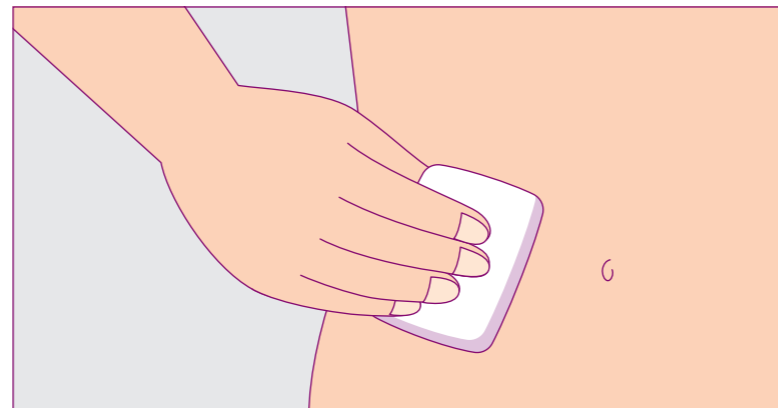
自己注射の仕方 針を抜いた後 ～ 消毒

⑥ プランジャーヘッドから指を離します。



- ゆっくりとプランジャーヘッドから指を離すと、針ガードが自動的にスライドして、注射針を覆います。

⑦ 新しいアルコール消毒綿でおさえます。



- 注射した部位に少量の出血がみられる場合、新しいアルコール消毒綿で注射部位を揉まずに10秒間おさえます。
- 必要に応じて、絆創膏を使用してください。

2本以上注射する場合は、P14の通りシリンジを廃棄してから

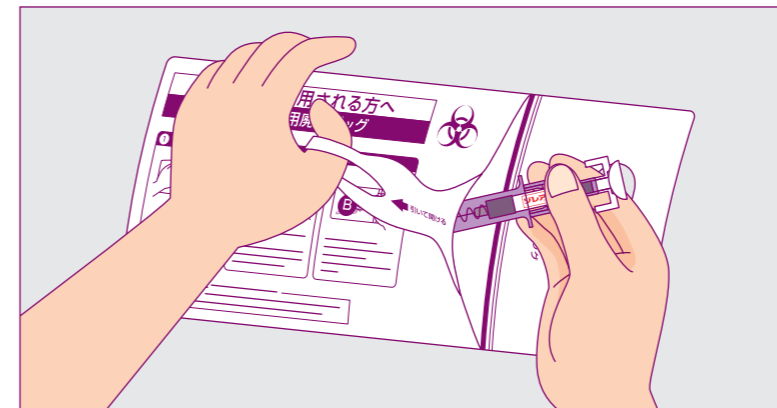
①～⑦までの作業をくりかえしてください。

(すでに注射した部位から3cm以上離れた部位に注射してください)

⚠ 注意

- 注射した部位を揉むと腫れることがありますので、揉まないでください。

シリンジの廃棄



- 使用済みのシリンジは、速やかに廃棄バッグに収納してください。(廃棄バッグがない場合はビンや缶などの固い容器(例えばインスタントコーヒーのガラスビン)などでも代用できます)

⚠ 注意

- 使用済みのシリンジは医療廃棄物として取り扱われます。廃棄の方法については医療機関の指示に従ってください。
- 使用済みのシリンジは再使用しないでください。
- 注射針カバー、アルコール消毒綿は、各市区町村の収集方法に従って家庭ごみとして捨ててください。
- 廃棄バッグは、子どもの手の届かない場所に保管してください。

注射後の症状や体調について

注射した後に、いつもとは違う変化を感じたときは、すぐに主治医または医療機関までご連絡ください。

● ゾレアの投与後は、以下の症状に注意してください。

ショック・アナフィラキシー*が疑われる症状

「皮膚のかゆみ」、「じんましん」、「声のかすれ」、「くしゃみ」、「のどのかゆみ」、「息苦しさ」、「どうき」、「意識の混濁」などの症状がみられる場合には、緊急に主治医または医療機関に連絡して、速やかに受診してください。

※全身にわたって生じるアレルギー反応により症状が急激にあらわれ、重篤な場合は生命をおびやかす危険がまれににあります。

● ゾレアの主な副作用は、注射部位の赤みや腫れです。



赤くなる



かゆくなる



腫れる



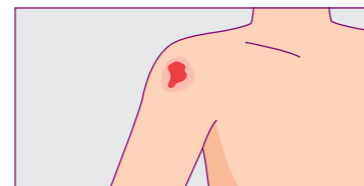
痛い



熱くなる



硬くなる



出血する

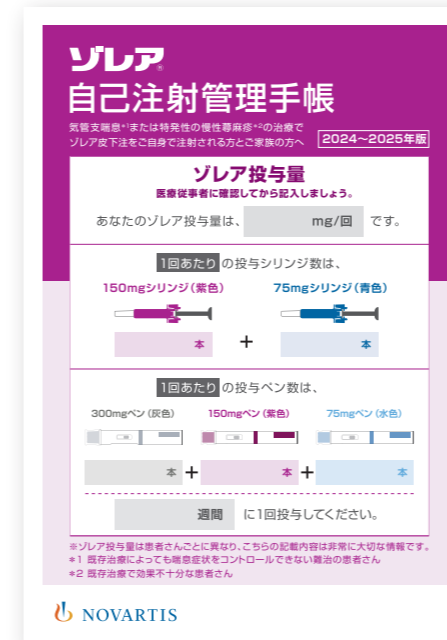
ゾレアの投与で予想される主な副作用は、注射部位の反応です。

国内の臨床試験でもっとも多くみられた副作用は、注射した場所が赤くなったり、腫れたりする症状でした。

自己注射管理手帳への記録

注射が終わったら、「自己注射管理手帳」に注射した日付と部位、体温、体調について記入しましょう。

「自己注射管理手帳」は主治医または医療機関にとっても必要になることがありますので、診察時にお持ちください。



「自己注射管理手帳」には、次の項目を記入してください。

- 注射した日付
- 体温
- 注射した部位の痛みや腫れ
- その他の症状

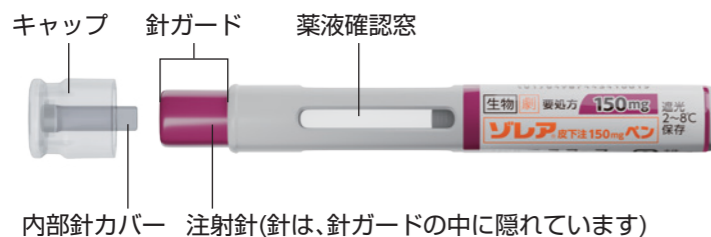
自己注射に必要なもの

① 注射器

患者さんごとに使用するペンの種類（灰、紫、青）・本数が異なります。

ご自身の投与量を確認してください。（表紙参照）

150mgペン（針ガードの色が紫色）



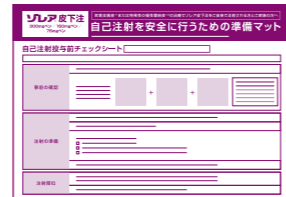
75mgペン（針ガードの色が水色）



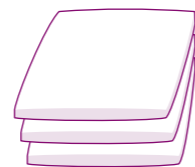
300mgペン（針ガードの色が灰色）



② 準備マット



③ アルコール消毒綿



[ゾレアの投与本数×2]枚
+1枚（マット消毒用）
を用意してください。

④ 使用済み注射器入れ（廃棄バッグ）



⑤ ゾレア自己注射管理手帳



ゾレア（ペン）の保管の仕方

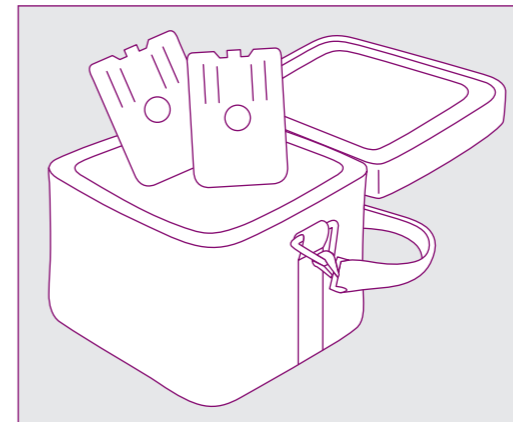
医療機関で受け取ったゾレアは、自己注射するときまで箱に入れたまま2～8℃で保管する必要があります。

適切に保管されなかったゾレアはご使用いただくことはできませんのでご注意ください（一度でも凍結した場合もご使用いただけません）。ゾレアを適切に温度管理できなかったと想定される場合は、ゾレアを使用せず、医療機関にご相談ください。

● 医療機関～ご自宅等までの持ち運び方法

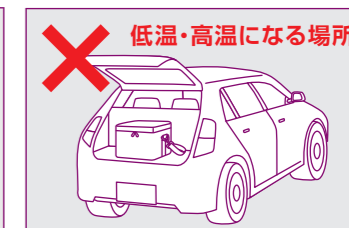
専用保冷バッグの取扱説明書に従って、すみやかに持ち運んでください。

専用保冷剤を十分に冷やしてから、専用保冷バッグに入れて病医院・薬局にお持ちください。



専用保冷バッグの保冷効果には限りがあります。

ご自宅等から持ち出した後は、すみやかにゾレアを受け取り持ち帰ってください。また、低温・高温になる場所には置かないでください。



● ご自宅等での保管方法

箱を小分け袋に入れたまま、冷蔵庫で保管してください。

- ✓ 冷蔵庫内にゾレアを保管するスペースを空けてください。
- ✓ 薬液が凍結するのを避けるため、冷凍庫、チルド室、野菜室、冷気の吹き出し口付近には保管しないでください。
- ✓ 遮光のため、外箱に入れたまま保管してください。



1回に必要な投与本数（投与量）の確認

ゾレアの1回あたりの投与本数（投与量）は、患者さんごとに異なります。

決められた投与量を「ゾレア皮下注300mgペン」「ゾレア皮下注150mgペン」「ゾレア皮下注75mgペン」の組み合わせで投与します。



主治医にご確認後、**投与本数とスケジュール**を本ガイドブックの表紙に書き写し、ご自身で確認できるようにしてください。

投与本数

スケジュール

※「自己注射管理手帳の表紙」「準備マット」でも確認できます。

300mgペン、150mgペン、75mgペンの見分け方

	ゾレア皮下注300mgペン	ゾレア皮下注150mgペン	ゾレア皮下注75mgペン
ゾレアの外箱	 外箱の色が灰色	 外箱の色が紫色	 外箱の色が水色
ゾレアのペン本体	 針カバーが灰色のペン本体	 針カバーが紫色のペン本体	 針カバーが水色のペン本体

スケジュール

ゾレアの投与スケジュールは、患者さんごとに異なります。

4週間ごと、または2週間ごとに投与します。



- ご自身の投与間隔は、主治医にご確認ください。
- 患者さんによって注射の本数が異なりますので主治医にご確認ください。
- 体調がすぐれないときは無理に注射せず、主治医にご連絡ください。

※自己注射を始める前に、体調不良時の対処法・連絡方法など主治医と事前に相談しておきましょう。

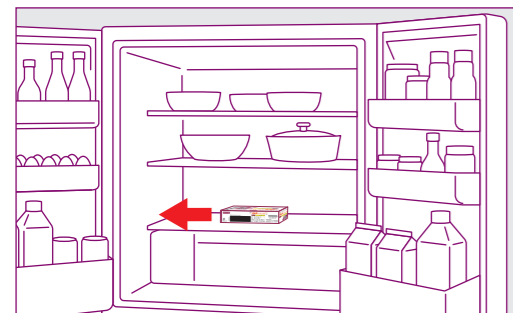
※スケジュールと体調管理にあたっては、「自己注射管理手帳」もご活用ください。



注射の準備

① 箱を冷蔵庫から出します。

患者さんごとに使用するペンの種類・本数が異なります。(表紙参照)



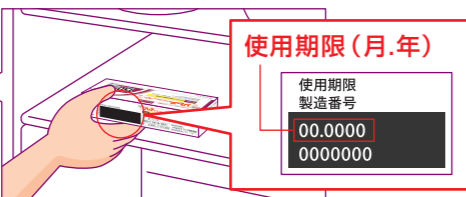
● 注射する約30分前に冷蔵庫から取り出し、箱のまま室温に戻します。(ペンは使用する直前に箱から出してください)

※箱に表示されている使用期限を確認し、期限が過ぎている場合は使用しないでください。

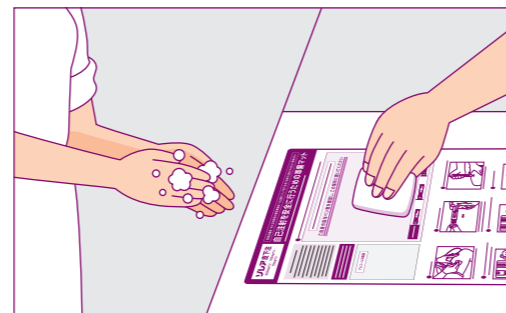
② 場所を確保します。



● 明るく、平らな場所を選んで清潔にしてください。



③ 手を洗い、準備マットを消毒します。



● 石けんを使って手を丁寧に洗い、準備マットをアルコール消毒綿で消毒します。

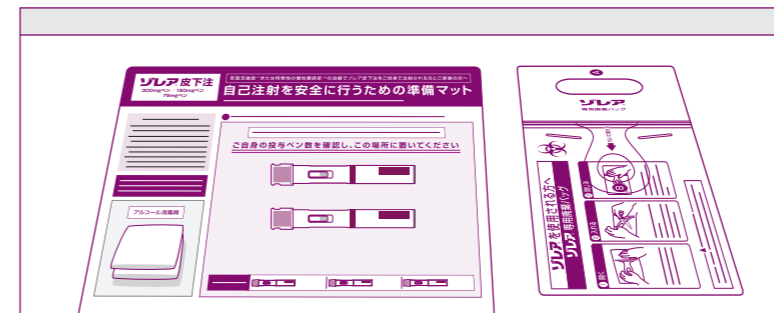
⚠ 注意

● 注射する約30分前に冷蔵庫から取り出し、室温に戻したあとは**速やかに**投与してください。

ペンを冷蔵庫から出した後は、次の点にご注意ください。

- 電子レンジで温めたり、湯せんにかかけたりしないでください。
- 振らないでください。
- 長時間放置しないでください。
- 直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- 子どもの手の届かない場所に置き、子どもの手に触れないようにしてください。

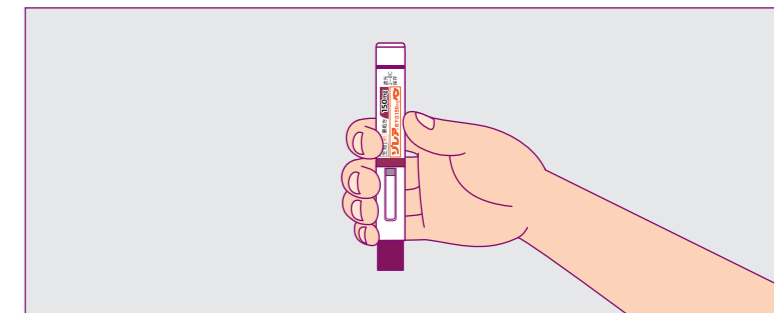
④ アルコール消毒綿で消毒した準備マットの上に注射に必要なものを並べます。



● 準備マットを置き、次のものを準備します。

- ペン (投与する本数に応じて)
- アルコール消毒綿 ([ゾレアの投与本数×2]枚)
- 使用済み注射器入れ (廃棄バッグ)

⑤ ペンと薬液を確認します。



- ✓ ペンの使用期限が過ぎていない (使用期限は外箱・ペンに記載)
- ✓ ペンが破損していない
- ✓ 薬液が変色していない (正常な色は透明か、薄い黄色)
- ✓ 薬液に異物 (粒や塊など) が混ざっていない (気泡が見える場合がありますが問題ありません)
- ✓ 使用済みのペンではない (再使用しないでください)

上記に異常があった場合は、使用せずに主治医または医療機関にご連絡ください。

⚠ 注意

ペンの取り扱いは、次の点に注意してください。

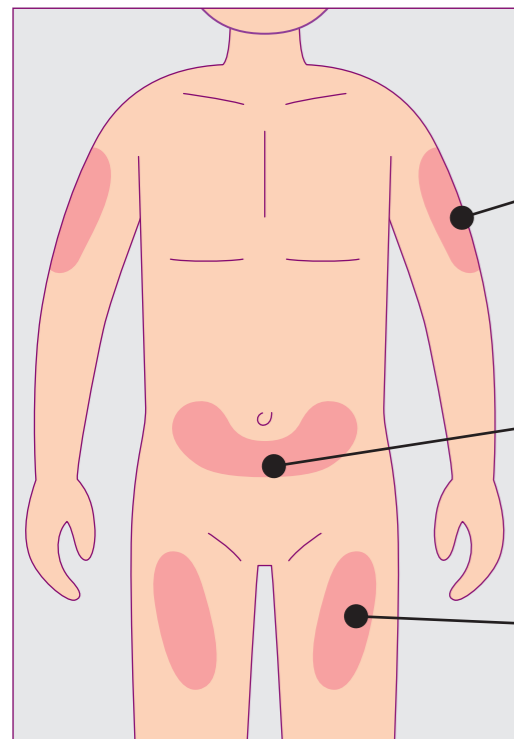
- キャップを外さないでください。

次の場合は、使用せずに主治医または医療機関にご連絡ください。

- ペンの使用期限が過ぎている場合。(使用期限は外箱・ペンに記載あり)
- 薬液が正常な色 (透明か、薄い黄色) と違う場合。
- 薬液に異物 (粒や塊など) が混ざっている場合。
- ペンが破損している場合。
- キャップを外した後にペンを落とした場合。

注射する部位

注射する部位は次の**3**つです。



上腕部の外側（二の腕）

ご家族の方が注射される場合は上腕部の外側に注射することもできます。ただし、ご自身で注射される場合はこの部位は避けてください。

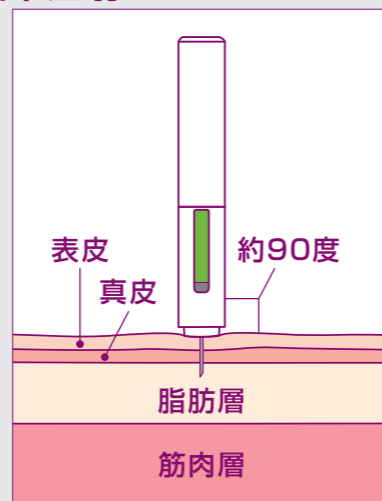
腹部（おなかの下の方）

へその周り5cmは避けてください。

大腿部前面（太もも）

鼠径部（太ももの付け根）や膝に近い部位、大腿部の外側、内側を避けてください。大腿部の皮下脂肪が著しく少ない方は、この投与方法は推奨できません。

皮下注射とは？



- 皮膚の下にある脂肪層に注射します。たるみがあって柔らかい部位を選ぶと比較的注射がしやすくなります。

⚠ 注意

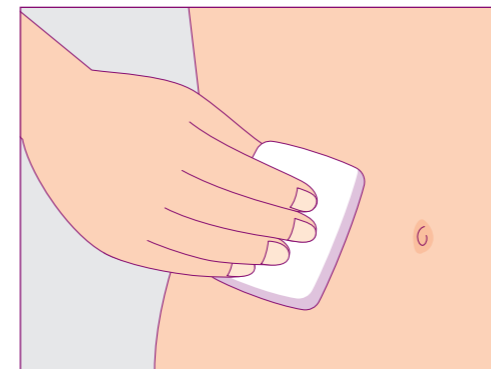
- 皮下脂肪が少ない方（小児の方など）は、ペンによる筋肉内投与の懸念があるため、医師判断のもと慎重に投与を検討してください。
- 2本以上注射する場合は、3cm以上離れた部位に注射してください。
- 皮膚が敏感な部位、皮膚に痛み、傷、赤み、かさつき、傷跡がある部位、硬くなっている部位には注射しないでください。
- 「自己注射管理手帳」に注射日と注射した部位を必ず記録してください。

注射の仕方 消毒～ペンを当てる

腹部への注射

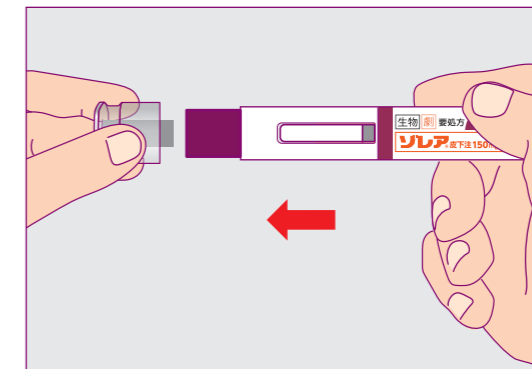
注射の仕方については、主治医または医療機関の指示に従ってください。

① 消毒します。



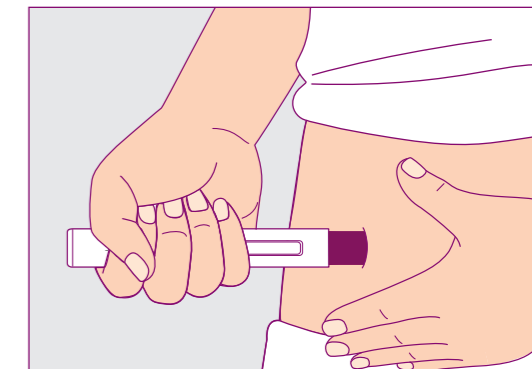
- 注射する部位とその周囲をアルコール消毒綿で消毒します。

② ペンからキャップを外します。



- 注射の準備が整ってからキャップを取り外してください。
- キャップは図の矢印の方向にまっすぐ引き抜いてください。

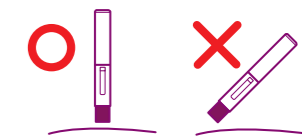
③ ペンを注射部位に当てます。



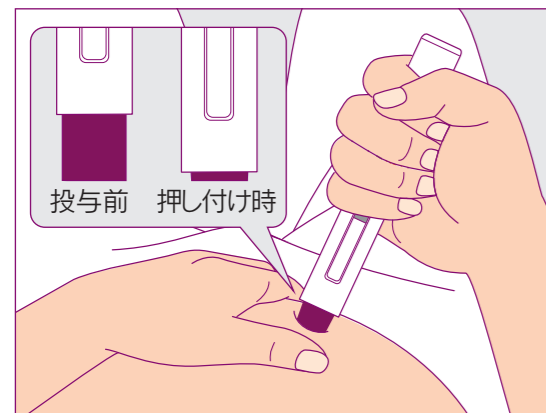
- ペンを握り、消毒した部位に対してペンを直角に当ててください。
- へその周り5cmは避けてください。

⚠ 注意

- 皮下脂肪が少ない方（小児の方など）は、ペンによる筋肉内投与のリスクがあるため、医師判断のもと慎重に投与を検討してください。
- 消毒した部位は注射するまで手を触れないようにしてください。
- 外したキャップはすぐに廃棄し、再度ペンにはめないでください。
- 針が内部に入っているため、キャップを外したら、針ガードには触れずにすぐに注射してください。

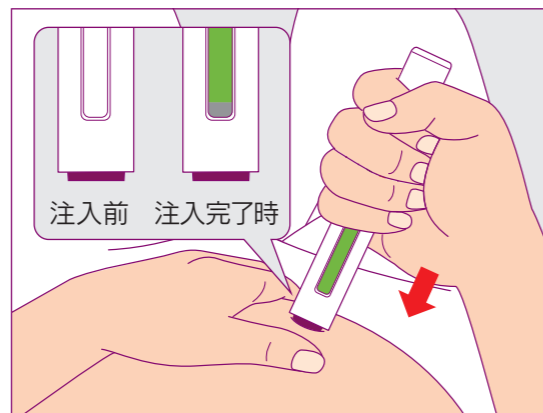


④ 針ガードを最後まで押し込めるようにペンを押し付けます。



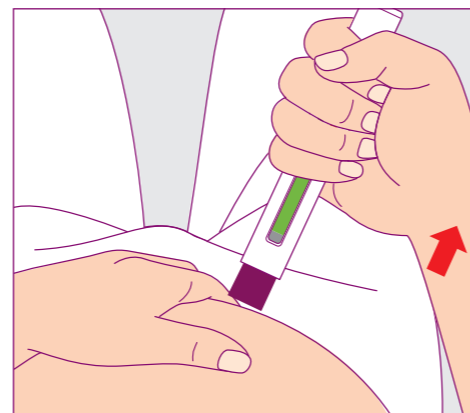
- ペンをしっかりと注射部位に押し付けてください。
- 針ガードを最後まできっちり押し込まないと、ペンが正常に作動しません。
- 押し付けると、カチッという音がして、薬液の注入が開始されます。ペンは針ガードをしっかりと押しつけ、そのまま動かさないでください。

⑤ ペンを押し付けたままにします。



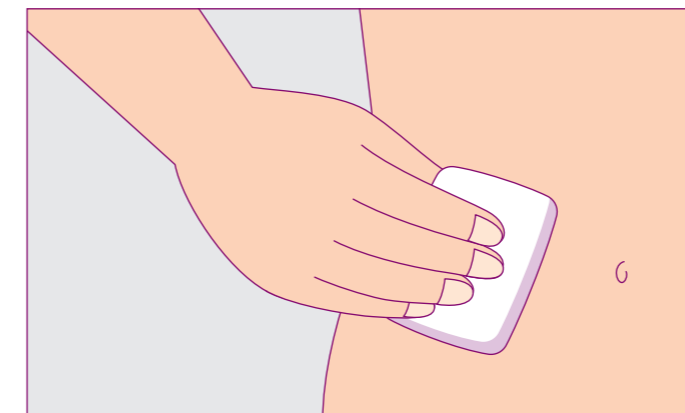
- 薬液確認窓から見える緑色のインディケーターの動きが薬液の注入状況を示しています。
- 薬液の注入がほぼ完了すると、もう一度カチッという音がします。
- 緑色のインディケーターの動きが止まるまでペンを注射部位から離さないでください。

⑥ ペンを離します。



- 緑色のインディケーターの動きが止まったら、ペンを注射部位から離してください。
- 緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていることを確認してください。

⑦ 新しいアルコール消毒綿でおさえます。



- 注射した部位に少量の出血がみられる場合、新しいアルコール消毒綿で注射部位を揉まずにおさえます。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。

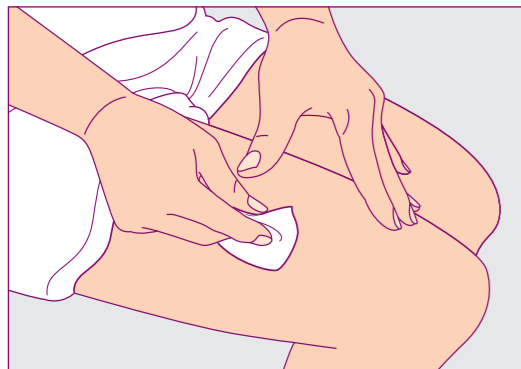
▲ 注意

- 緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていない場合、薬液がすべて注入されなかったおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。

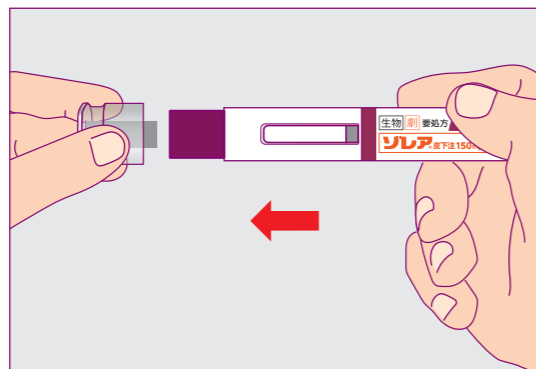
2本以上注射する場合は、P33の通り
ペンを廃棄してから
①～⑦までの作業をくりかえしてください。
(すでに注射した部位から3cm以上離れた部位に
注射してください)

注射の仕方については、主治医または医療機関の指示に従ってください。

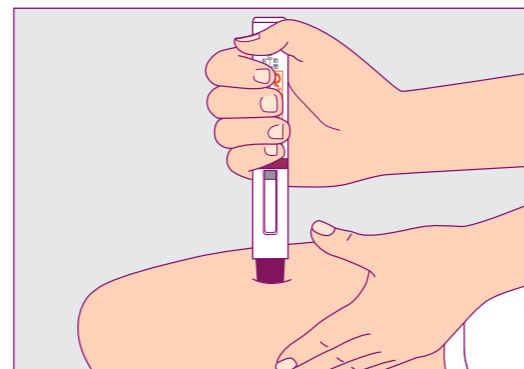
- ① 消毒します。 ② ペンからキャップを外します。 ③ ペンを注射部位に当てます。



- 注射する部位とその周囲をアルコール消毒綿で消毒します。



- 注射の準備が整ってからキャップを取り外してください。
- キャップは図の矢印の方向にまっすぐ引き抜いてください。



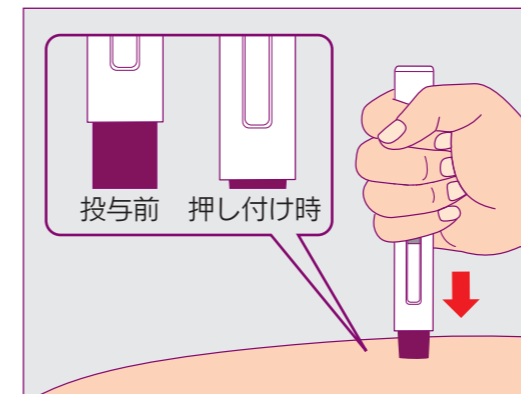
- ペンを握り、消毒した部位に対してペンを直角に当ててください。



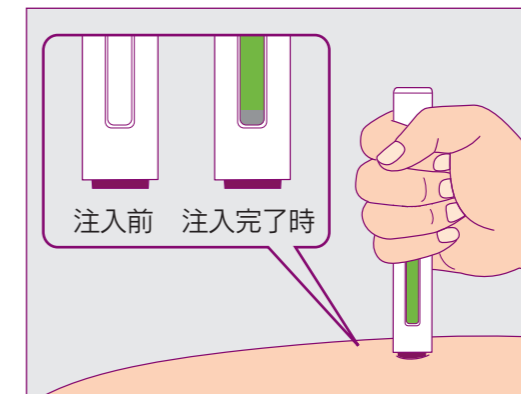
⚠ 注意

- 皮下脂肪が少ない方（小児の方など）は、ペンによる筋肉内投与のリスクがあるため、医師判断のもと慎重に投与を検討してください。
- 消毒した部位は注射するまで手を触れないようにしてください。
- 外したキャップはすぐに廃棄し、再度ペンにはめないでください。
- 針が内部に入っているため、キャップを外したら、針ガードには触れずにすぐに注射してください。

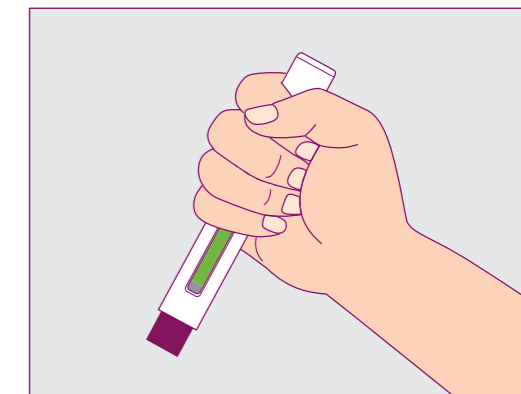
- ④ 針ガードを最後まで押し込めるようにペンを押し付けます。 ⑤ ペンを押し付けたままにします。 ⑥ ペンを離します。



- ペンをしっかりと注射部位に押し付けてください。
- 針ガードを最後まできっちり押し込まないと、ペンが正常に作動しません。
- 押し付けると、カチッという音が出て、薬液の注入が始まります。ペンは針ガードをしっかりと押しつけ、そのまま動かさないでください。

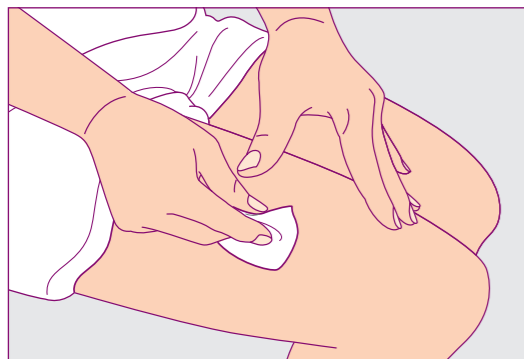


- 薬液確認窓から見える緑色のインディケータの動きが薬液の注入状況を示しています。
- 薬液の注入がほぼ完了すると、もう一度カチッという音がします。
- 緑色のインディケータの動きが止まるまでペンを注射部位から離さないでください。



- 緑色のインディケータの動きが止まったら、ペンを注射部位から離してください。
- 緑色のインディケータが薬液確認窓いっぱいに出ていることを確認してください。

⑦新しいアルコール消毒綿でおさえます。



2本以上注射する場合は、P33の通り
ペンを廃棄してから
①～⑦までの作業をくりかえしてください。
(すでに注射した部位から3cm以上離れた部位に
注射してください)

- 注射した部位に少量の出血がみられる場合、新しいアルコール消毒綿で注射部位を揉まずにおさえます。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。

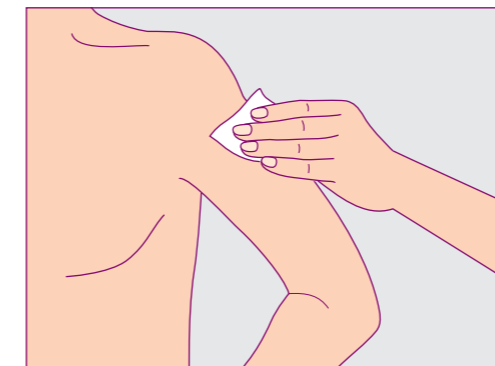
⚠ 注意

- 緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていない場合、薬液がすべて注入されなかったおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。

※ご自身で注射される場合はこの部位は避けてください。

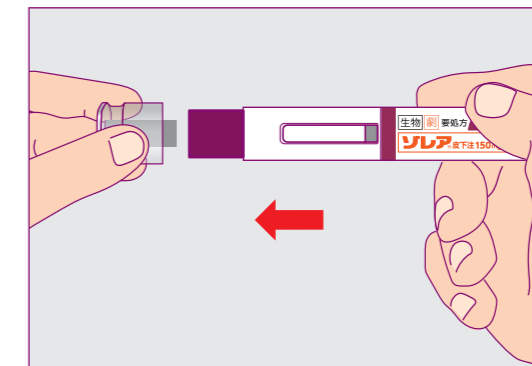
注射の仕方については、主治医または医療機関の指示に従ってください。

①消毒します。



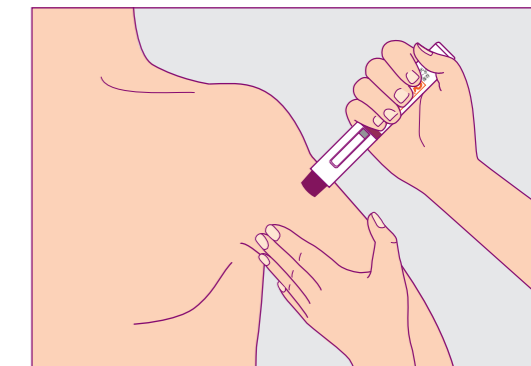
- 注射する部位とその周囲をアルコール消毒綿で消毒します。

②ペンからキャップを外します。



- 注射の準備が整ってからキャップを取り外してください。
- キャップは図の矢印の方向にまっすぐ引き抜いてください。

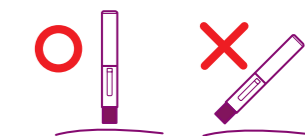
③ペンを注射部位に当てます。



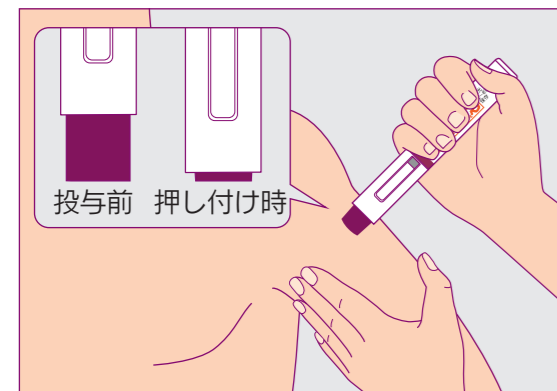
- ペンを握り、消毒した部位に対してペンを直角に当ててください。

⚠ 注意

- 皮下脂肪が少ない方(小児の方など)は、ペンによる筋肉内投与のリスクがあるため、医師判断のもと慎重に投与を検討してください。
- 消毒した部位は注射するまで手を触れないようにしてください。
- 外したキャップはすぐに廃棄し、再度ペンにはめないでください。
- 針が内部に入っているため、キャップを外したら、針ガードには触れずにすぐに注射してください。

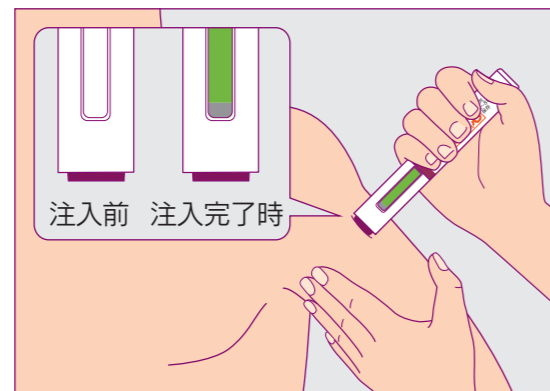


④ 針ガードを最後まで押し込めるようにペンを押し付けます。



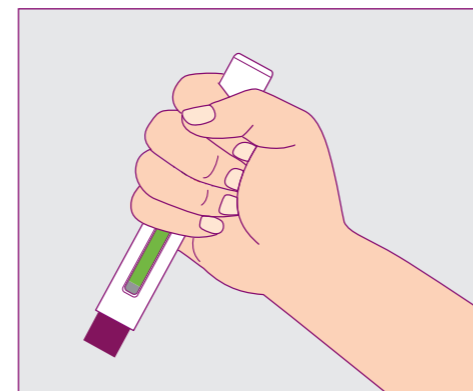
- ペンをしっかりと注射部位に押し付けてください。
- 針ガードを最後まできっちり押し込まないと、ペンが正常に作動しません。
- 押し付けると、カチッという音がして、薬液の注入が開始されます。ペンは針ガードをしっかりと押しつけ、そのまま動かさないでください。

⑤ ペンを押し付けたままにします。



- 薬液確認窓から見える緑色のインディケーターの動きが薬液の注入状況を示しています。
- 薬液の注入がほぼ完了すると、もう一度カチッという音がします。
- 緑色のインディケーターの動きが止まるまでペンを注射部位から離さないでください。

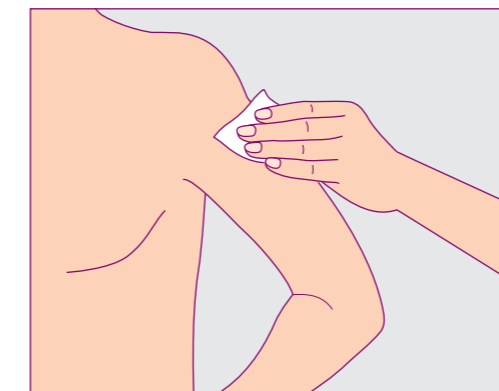
⑥ ペンを離します。



- 緑色のインディケーターの動きが止まったら、ペンを注射部位から離してください。
- 緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ていることを確認してください。

※ご自身で注射される場合はこの部位は避けてください。

⑦ 新しいアルコール消毒綿でおさえます。



- 注射した部位に少量の出血がみられる場合、新しいアルコール消毒綿で注射部位を揉まずにおさえます。
- 必要に応じて、絆創膏をご使用ください。

⚠ 注意

- 緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出ない場合、薬液がすべて注入されなかったおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。

2本以上注射する場合は、P33の通りペンを廃棄してから①～⑦までの作業をくりかえしてください。
(すでに注射した部位から3cm以上離れた部位に注射してください)



- 使用済みのペンは、速やかに廃棄バッグに収納してください。
(廃棄バッグがない場合はビンや缶などの固い容器 (例えばインスタントコーヒーのガラスビン) などでも代用できます)

⚠ 注意

- 使用済みのペンとペンのキャップは医療廃棄物として取り扱われます。廃棄の方法については医療機関の指示に従ってください。
- 使用済みのペンは再使用しないでください。
- アルコール消毒綿は、各市区町村の収集方法に従って家庭ごみとして捨ててください。
- 廃棄バッグは、子どもの手の届かない場所に保管してください。

注射した後に、いつもとは違う変化を感じたときは、すぐに主治医または医療機関までご連絡ください。

- **ゾレアの投与後は、以下の症状に注意してください。**

ショック・アナフィラキシー※が疑われる症状

「皮膚のかゆみ」、「じんましん」、「声のかすれ」、「くしゃみ」、「のどのかゆみ」、「息苦しさ」、「どうき」、「意識の混濁」などの症状がみられる場合には、緊急に主治医または医療機関に連絡して、速やかに受診してください。

※全身にわたって生じるアレルギー反応により症状が急激にあらわれ、重篤な場合は生命をおびやかす危険がまれにあります。

- **ゾレアの主な副作用は、注射部位の赤みや腫れです。**



赤くなる



かゆくなる



腫れる



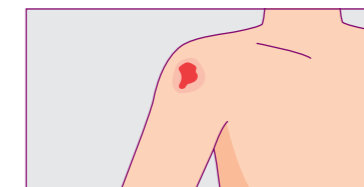
痛い



熱くなる



硬くなる



出血する

ゾレアの投与で予想される主な副作用は、注射部位の反応です。

国内の臨床試験でもっとも多くみられた副作用は、注射した場所が赤くなったり、腫れたりする症状でした。

自己注射管理手帳への記録

注射が終わったら、「自己注射管理手帳」に注射した日付と部位、体温、体調について記入しましょう。
「自己注射管理手帳」は主治医または医療機関にとっても必要になることがありますので、診察時にお持ちください。

ペン



「自己注射管理手帳」には、次の項目を記入してください。

- 注射した日付
- 体温
- 注射した部位の痛みや腫れ
- その他の症状

よくあるご質問



Q 予定していた日に注射するのを忘れてしまいました。
どうしたらよいですか？

A 自己判断でほかの日に注射することはせず、主治医に連絡し、指示に従ってください。
決められた日に注射できないことが分かっている場合は、
事前に主治医に相談して指示に従ってください。

Q 自己注射をする予定日に旅行や出張が入ってしまいました。
どうしたらよいですか？

A 旅行や出張の予定日が分かったら、事前に主治医にご相談ください。
また、その他の理由で予定日に注射ができない場合も、
事前に主治医に相談して指示に従ってください。



Q 何時ごろ注射するのがよいですか？

A 注射する時間に決まりはありませんが、忘れないように、
一定の時間（例：入浴した後など）を決めておくとよいでしょう。
主治医の指示に従ってください。

Q & A

-  **Q** 体調がすぐれないのですが、
 予定通り注射して大丈夫ですか？


A 体調に異変を感じたときは無理に注射せず、主治医にご連絡ください。

-  **Q** 注射した部位が痛くなったり、かゆくなったりした場合、
 どうしたらよいですか？

A ご自身の判断で対処はせず、主治医にご連絡ください。

-  **Q** 注射した日にお風呂に入っても大丈夫ですか？


 **A** 注射した日の入浴は可能です。

-  **Q** 注射している際に薬液が漏れてしまいました。
どうしたらよいですか？

A どれだけの薬液が漏れたか主治医に連絡し、指示に従ってください。
注射針カバーを外した際、針の先に薬液の水滴が見えることがありますが、問題ありません。

-  **Q** 注射する前にシリンジを硬い面に落としたり、注射針カバーを外した後に
落としたりしてしまった場合、どうしたらよいですか？

A そのシリンジは使用せず、主治医にご連絡ください。主治医と連絡がとれない場合で、
ご自宅にゾレアをお持ちの場合は、後日投与予定の同一用量（150mgまたは75mg）の
シリンジを冷蔵庫から準備し、慌てずにシリンジの「注射の準備」（P7）から
手順に従って注射してください。後日、主治医にご相談ください。

-  **Q** プランジャーヘッドをすべて押しきらずに、薬液が残ってしまいました。
どうしたらよいですか？

A 皮膚からシリンジを離したとき、残液があった場合は主治医に連絡し指示に従ってください。
なお、一度使用したシリンジは再使用できませんので、廃棄バッグへ収納してください。

 **Q** 注射する前にペンを落としたりしてインディケーターが作動してしまいました。どうしたらよいですか？

A そのペンは使用せず、新たなペンを準備し慌てずにペンの「注射の準備」(P21、22) から手順に従って注射してください。また、そのことについて主治医に連絡してください。

 **Q** ペンを注射部位に押し付けても、薬液の注入が始まりません。どうしたらよいですか？

A ペンが正しく押し付けられていないおそれがあります。ペンは注射部位に対して直角に当て、しっかりと押し付けてください。腹部に注射する場合、皮膚が柔らかすぎて針ガードを押し込めない場合があります。それでも薬液の注入が始まらない場合は、ペンが破損しているおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。

 **Q** 注入が速いときと遅いときがあります。問題ないですか？

A 問題ありません。緑色のインディケーターが下まで完全に下がり動きが止まっていれば、注入は完了しています。普段よりも注入時間が長いと感じられる場合にも、インディケーターが下まで完全に下がり、動きが止まるまでペンを押し当てたままで固定してください。

 **Q** 注入完了時に「カチッ」という音が聞こえませんでした。問題ないですか？

A 「カチッ」という音が聞こえなかったときは、緑色のインディケーターの動きで注入完了が確認できます。インディケーターが下まで完全に下がり動きが止まっていれば、注入は完了していますので、問題ありません。

 **Q** ペンの薬液注入中、緑色のインディケーターが薬液確認窓いっぱいに出る前に、ペンを途中で抜いてしまいました。どうしたらよいですか？

A 途中で抜いてしまったペンは再び使用できませんので、廃棄バッグへ収納してください。また、規定の投与量がすべて注入されなかったおそれがありますので、主治医に連絡し指示に従ってください。なお、残っている薬液が排出されますので、収納時には取り扱いにご注意ください。

 **Q** 腕に注射した後、針が抜けません。どうしたらよいですか？

A 皮膚が傷つかないように注意しながら、ペンを軽く引っ張り抜針を試みてください。それでも抜けない場合は、そのまま注射した箇所を動かさないようにして主治医に連絡し、指示に従ってください。

memo

memo